

PRESS KIT



COLOURS OF EXTRA LEGANZA

PIAGET



カラフルなヘリテージを基盤に、ピアジェは
エクストラレガンザの芸術を称えるハイジュエリー
三部作の最終章を発表します。「エクストラレガンザの
色彩」と名付けられた65の並外れた作品は、
色彩が素材となり、形となり、言語となる
感覚の世界へと誘います。

ここではゴールドが基調となり、ダイヤモンドと
サファイアのきらめき、エメラルドとルビーの輝き、
空のような色合いのオパール、そしてタイガーズアイと
マザーオブパールの虹色のきらめきが融合して
います。喜びと遊び心に満ち、生命力にあふれる、
匠の技が光るようなコレクションです。


PIAGET

2024年に、メゾンの創業150周年を記念して発表された「エッセンス オブ エクストラレガンザ」、そして、2025年に発表された「シェイプ オブ エクストラレガンザ」に続き、創造的で文化的な活気みなぎる1960年代と1970年代にインスパイアされた「カラー オブ エクストラレガンザ」コレクションが華やかなハイジュエリー三部作を壮大な結末へと導きます。

1957年に伝説的な9P薄型ムーブメントを開発したことで、ピアジェは色彩の世界の扉を開きました。このムーブメントの薄さによって、文字盤に多彩な色の宝石を用いることができるようになったのです。「色彩はピアジェの歴史と伝統に不可欠な要素です。」と、ピアジェのアーティスティックディレクターを務めるステファニー・シヴリエールは説明しています。「このたび、カラー オブ エクストラレガンザによって、色彩の新たな境地を切り拓くこととなりました。それは、ピアジェの美の基準である贅沢さと優雅さに完璧に響き合うものとなっています」メゾンのAteliers de l'Extraordinaire (最高を生み出すアトリエ) で製作される65の作品は、補色や対照的な色彩を組み合わせ、繊細なニュアンスを巧みに表現する技を、ピアジェがいかに極めてきたかを示しています。

PIAGET





ピアジェらしさが光る 色彩へのアプローチ

ピアジェは、色彩を単なるアクセントとして用いるのではなく、そのあらゆる側面を探求し、さまざまな質感を巧みに活かして、色彩そのものを素材として昇華させています。

「このコレクションでは、宝石そのものに留まらず、その色彩の持つ力、つまりそれらが放つ存在感、エネルギー、また、他の宝石と組み合わせたときに表現される独自の特性にこだわりました。例えば、グリーンのハイライトを持つブラックオパールとウルトラマリンサファイアの組み合わせや、サファイアとマザーオブパールとの組み合わせでは、それぞれのピンクの色合いが互いを引き立て合っています。」とステファニー・シヴリエールは述べています。

同様に、ゴールドも色彩のひとつとして扱っており、半世紀以上にわたりピアジェのクリエイティブなパレットに欠かせない要素となっています。ピアジェは宝石の色合いとゴールドの色合いを組み合わせることで、美的表現を豊かにしています。陽の光を浴びたような鮮やかなスタイルが特徴です。色彩は、それが呼び起こす感情と戯れるだけでなく、時を刻むスウィング・ソートワールの揺らめきにリズムを与え、現代的華麗さを持つリングやイヤリングにも光の彫刻を施します。このようにして色彩はピアジェらしさの象徴となっているのです。

PIAGET



ピアジェの色彩

今回のコレクションを代表する作品「ブルー イリュージョン」ネックレスをご紹介します。ピアジェの工房で約900時間をかけて制作された独創的な逸品は、8.52カラットのマダガスカル産クッションカットサファイアのブルーと、3.30カラットのプライベートトルマリンのラグーングリーンを対比させ、これらが並外れた唯一無二の13.98カラットのブラックオパールブルーとグリーン虹色の輝きによって、燃え立つように引き立てられています。この3つの宝石は、無数のサファイアと、手作業でカットされたバゲットカットのトルマリンが多数あしらわれ、ダイヤモンドが散りばめられています。幾何学的に配置することで、首元に光のきらめきを放つ視覚的効果をもたらします。このユニークなジュエリーには、2つのリング（うちひとつは5カラット近い滑らかなスリランカ産サファイアをあしらったもの）と2組のイヤリングが付属しています。

PIAGET



もう1つの象徴的なモデルは、ピアジェが1969年に今も語り継がれている伝説的な「21世紀コレクション」の中のひとつとして初めて発表した有名なソフトワールネックレスです。今回のコレクションにも含まれている「フラムボイアント リンク」がそれで、ピンクゴールドにタイガーズアイの斑点が巧みに散りばめられています。ゴールドリンクとオーナメンタルストーンを組み合わせた作品は、メゾンにとって久しぶりの試みで、1970年代以来のことです。4.13カラットのスペサタイトガーネットをあしらったこのトランスフォーダブルジュエリーは、チョーカーや腕時計としても着用できます。ジョイント部分には、ゴールドに彫刻を施し、鮮やかな模様のタイガーズアイを厳選して使用しております。まさにピアジェの卓越した匠の技が光る逸品です。これと同じコンセプトで、6.42カラットの眩いクッションカットスペサタイトガーネットを中央に配した魅惑的なリングと、3.21~3.30カラットの見事なファンタカラーのスペサタイトガーネットを2つあしらったイヤリングも制作しました。

PIAGET





4点のピースからなる「ゴールド スワール」コレクションは、1970年代を象徴する曲線美から着想を得て、現代的なひねりを加えて再構成しました。この華やかなカフブレスレットには、メゾンの優れた金細工技術が発揮されています。ピンクゴールド、ダイヤモンド、バゲットカットのブルーグリーントルマリンが絡み合うように配されており、これらの宝石がこの印象的な作品にボリューム感と質感を与えています。

ウォッチ製造を象徴するモチーフであるゴドロンが施されたピンクゴールドを、ハイジュエリーのセットに初めて用いました。カボションカットのオレンジ色のファイアオパールとインディコライトトルマリンがあしらわれたネックレスにつながり、中央にはダイヤモンドが敷き詰められた文字盤が収められています。

PIAGET



ピアジェは、1980年代に色彩をマニフェストとしたデザイン集団「メンフィス」に敬意を表し、5つの作品からなるこの鮮やかなセットを発表しました。マンダリンガーネットとアベンチュリンのオレンジ色と、サファイア、チューライト、ゴールドのピンク色を対比させています。ホワイトオパールのアクセントで落ち着いた印象に仕上げられたロングネックレスは、デコパレスのモチーフがあしらわれたゴールドリンクが特徴で、印象的な取り外し可能なペンダントウォッチになっています。非対称な形状のペンダントでは、オレンジアベンチュリンの文字盤に8.30カラットのマンダリンガーネットと3.54カラットのピンクサファイアを配しています。ピアジェの宝石へのこだわりは、彫刻の施されたリングにも遺憾なく発揮されています。混り気のない澄んだオパール、スイートピンクのチューライト、マンダリンアベンチュリンのプレートが、8.53カラットの華やかなガーネットを取り囲んでいます。ピアジェならではのハイジュエリーの輝きが、眩いばかりの色彩の揺らめきによって、いっそう鮮やかに引き立てられています。

PIAGET



ピアジェについて

ピアジェの独特の魅力はその大胆なスタイルにあります。1874年の創業以来受け継がれるクリエイティビティー溢れるスタイルは、華やかなウォッチやジュエリーに体现されています。大胆な創造性に対する情熱は、スイスのジュラ山脈にあるラ・コート・オ・フェで生まれました。メゾンの創立者であるジョルジュ=エドワール・ピアジェが、その村にある家族の農場の中に最初の工房を設け、高性能ムーブメントの制作をはじめたのは1874年のことでした。このときからウォッチ職人としてのピアジェの名は広く知られるようになります。パイオニア精神を大切にしているピアジェは、1950年代後半に薄型ムーブメントの設計・製造に乗り出しました。メゾンを代表する「アルティブラノ」の礎石となるそのムーブメントはピアジェの代名詞のひとつになり、ウォッチ製造の世界に確かな足跡を残しました。同時に、ピアジェは常に創造性と芸術的な価値に重きをおき、ゴールドと色とりどりのカラーの融合、新しいシェイプ、高価な宝石、オーナメンタルストーンの文字盤といったスタイルを受け継いできました。卓越したクラフツマンシップのもと、メゾンは「アルティブラノ」、「ピアジェ ポロ」、「ライムライトガラ」、「シックスティ」、「ポセション」、「ピアジェ サンライト」、「ピアジェ ローズ」、「エクストリームリーピアジェ」などの素晴らしいクリエイションを創り続けています。

PIAGET

WWW.PIAGET.COM

WWW.FACEBOOK.COM/PIAGET

WWW.INSTAGRAM.COM/PIAGET/

WWW.PINTEREST.COM/PIAGET/

WWW.YOUTUBE.COM/PIAGET

[WWW.LINKEDIN.COM/COMPANY/](http://WWW.LINKEDIN.COM/COMPANY/PIAGET)

WEIBO.COM/PIAGET

P

